

## 5. ユニバーサルデザイン

### (1) ユニバーサルデザイン等の認知度

#### ①ノーマライゼーション※の認知度

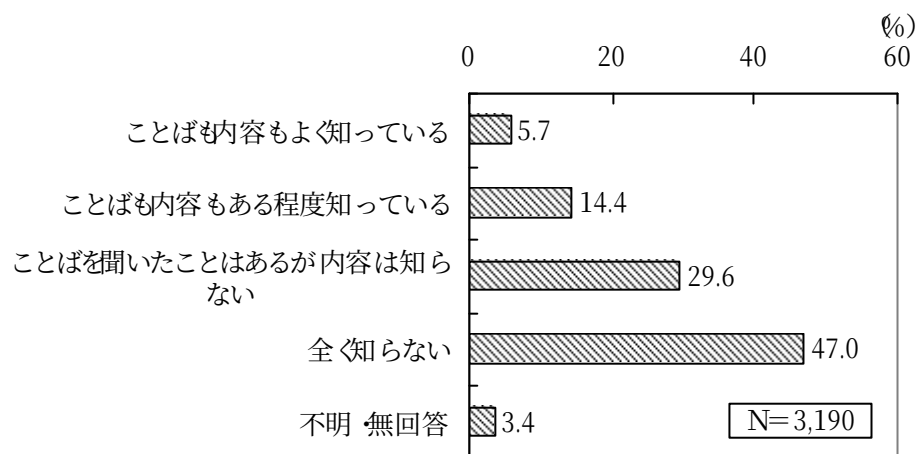
問 19 あなたは「ノーマライゼーション」について知っていますか。(○は1つだけ)

※ノーマライゼーション：高齢者や障害のある人等、社会的に不利益を負いやすい人々を当然に包括するのが通常社会であり、そのあるがままの姿で他の人と同等の権利を享受できるようにするという考え方と、そのための方法。

#### ■「ノーマライゼーション」の認知度は20.1%

「ノーマライゼーション」についての認知度（「ことばも内容もよく知っている」と「ことばも内容もある程度知っている」の合計）は20.1%となっている。

項目別では「全く知らない」が47.0%で最も多く、次いで「ことばを聞いたことはあるが内容は知らない」が29.6%となっている。「ことばも内容もよく知っている」は5.7%にとどまった。



#### 【地域別】

各地域とも「全く知らない」が最も多い。

認知度は大津・志賀地域（23.6%）と湖南地域（22.9%）の2つの地域で20%を超えているが、他の地域は10%台となっている。

#### 【性別】

男性の認知度が21.7%、女性の認知度が18.8%となっている。

#### 【性・年代別】

男性の各年代と女性の20歳代、30歳代で認知度が20%台となっているが、女性は年代が上がるにつれて認知度が減少しており、70歳以上の12.7%が最も低くなっている。

## ②ユニバーサルデザイン※の認知度

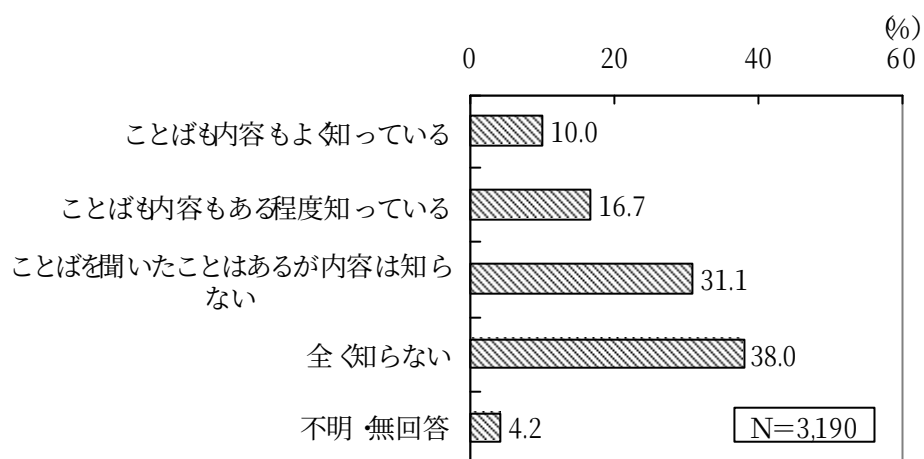
問 20 あなたは「ユニバーサルデザイン」について知っていますか。(○は1つだけ)

※ユニバーサルデザイン：年齢、性別、障害のあるなし等にかかわらずすべての人が、またけがをしている時、妊娠している時などどのような状態の時でも、建物、製品、サービスなどが利用可能なように、はじめから考えて計画し、実施するとともに、その後も更によりものに変えていこうという考え方。

### ■「ユニバーサルデザイン」の認知度は 26.7%

「ユニバーサルデザイン」についての認知度（「ことばも内容もよく知っている」と「ことばも内容もある程度知っている」の合計）は 26.7%となっている。

項目別では「全く知らない」が最も多く 38.0%、次いで「ことばを聞いたことはあるが内容は知らない」が 31.1%となっている。「ことばも内容もよく知っている」は 10.0%にとどまった。



#### 【地域別】

各地域とも「全く知らない」が最も多い。

認知度は大津・志賀地域が 31.5%で唯一 30%台となっており、他の地域は 20%台となっている。

#### 【性別】

男性の認知度が 28.2%、女性の認知度が 26.0%となっており、性別で大きな差はない。

#### 【性・年代別】

男性の 20 歳代を除き、男女とも年代が若いほど認知度が高い。男性では 30 歳代の 41.9% が最も高く、女性では 20 歳代の 42.7% が最も高い。

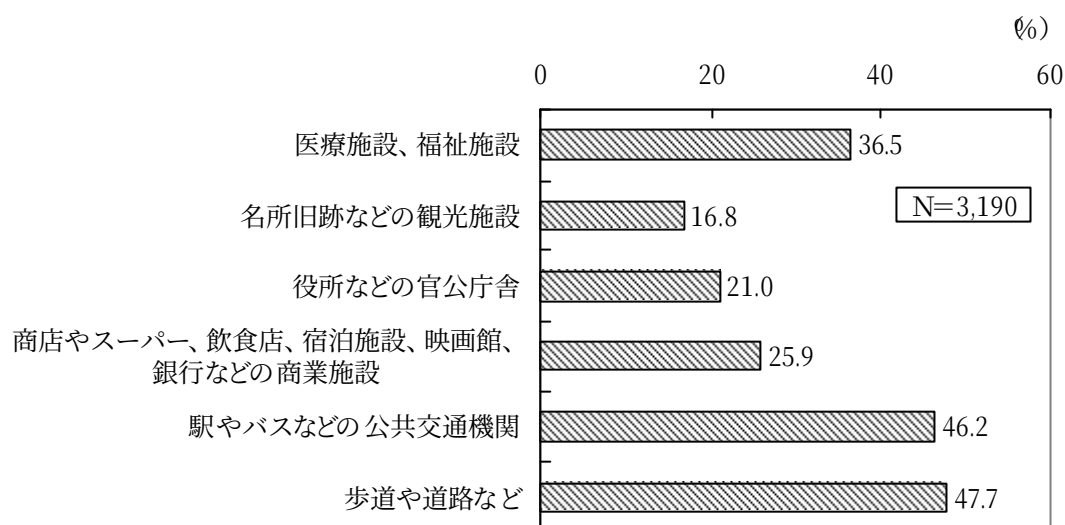
## (2) 不便を感じる施設や場所・もの、サービスについての意見

### ①不便を感じる施設や場所・もの、サービス

問 21 県ではこのユニバーサルデザインの考え方に立って施策を進めていくこととしています。そのための優先課題を検討する上で参考とするため、あなたが生活しているうえで不便を感じるもの、またはあなた以外の高齢者や障害のある人、妊婦、乳幼児を連れた人、外国人などに不便なのではないかと感じたものを全部選んでください。(○はいくつでも)

#### ■不便を感じる施設は「歩道や道路など」と「駅やバスなどの公共交通機関」が多い

回答者自身が不便を感じる、あるいは高齢者や障害のある人等に不便なのではないかと感じる施設については、「歩道や道路など」(47.7%)と「駅やバスなどの公共交通機関」(46.2%)が多くなっている。また、「医療施設、福祉施設」も 36.5%ある。



#### 【地域別】

湖西地域を除き、各地域とも「歩道や道路など」と「駅やバスなどの公共交通機関」が多い。湖西地域では「駅やバスなどの公共交通機関」が最も多く、次いで「医療施設、福祉施設」が多くなっている。

「歩道や道路など」については大津・志賀地域の 55.6%が最も多い。

「駅やバスなどの公共交通機関」については大津・志賀地域(50.4%)と甲賀地域(50.3%)、湖西地域(50.0%)の3つの地域が50%を越えている。

#### 【性別】

男女とも「歩道や道路など」と「駅やバスなどの公共交通機関」が多い。

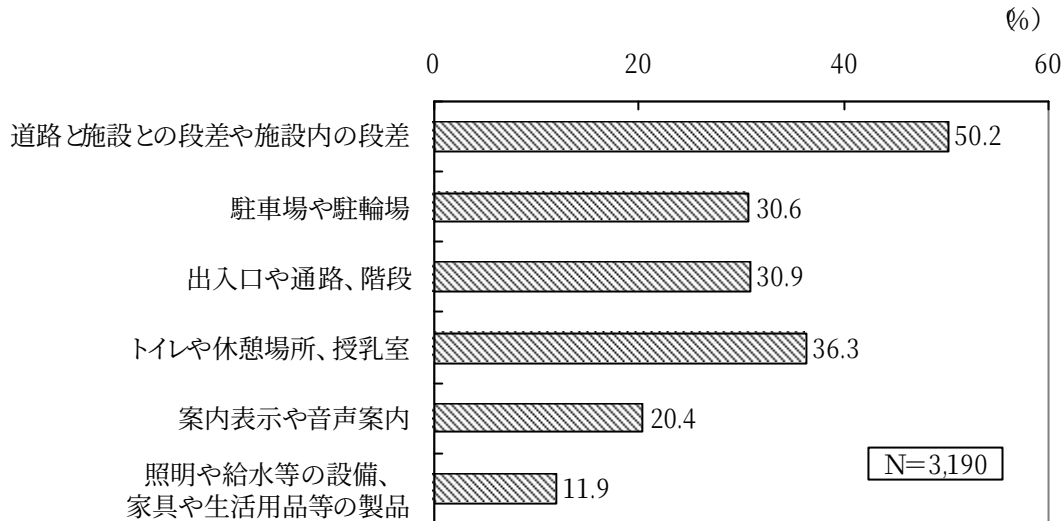
#### 【性・年代別】

男性の60歳代と女性の60歳代、70歳以上を除き、男女各年代とも「歩道や道路など」と「駅やバスなどの公共交通機関」が多い。男性60歳代と女性の70歳以上では「医療施設、福祉施設」が最も多くなっている。女性の60歳代では「駅やバスなどの公共交通機関」が最も多く、次いで「医療施設、福祉施設」が多くなっている。

男性の30歳代、40歳代と女性の20歳代～40歳代では「歩道や道路など」が他の年代よりも多くなっており、特に男性では30歳代の51.1%が最も多く、女性では30歳代の68.3%が最も多くなっている。

■不便を感じる場所・ものは、「道路と施設との段差や施設内の段差」が最も多い

不便を感じる場所やものについては、「道路と施設との段差や施設内の段差」が最も多く 50.2%となっている。また、「駐車場や駐輪場」、「出入口や通路、階段」、「トイレや休憩場所、授乳室」も 30%台となっている。



【地域別】

各地域とも「道路と施設との段差や施設内の段差」が最も多く、湖北地域（45.1%）、湖西地域（43.7%）を除いて 50%台となっている。また、「トイレや休憩場所、授乳室」については各地域とも 30%～40%の値となっている。さらに「駐車場や駐輪場」、「出入口や通路、階段」も各地域で 20%～30%程度の値となっている。

【性別】

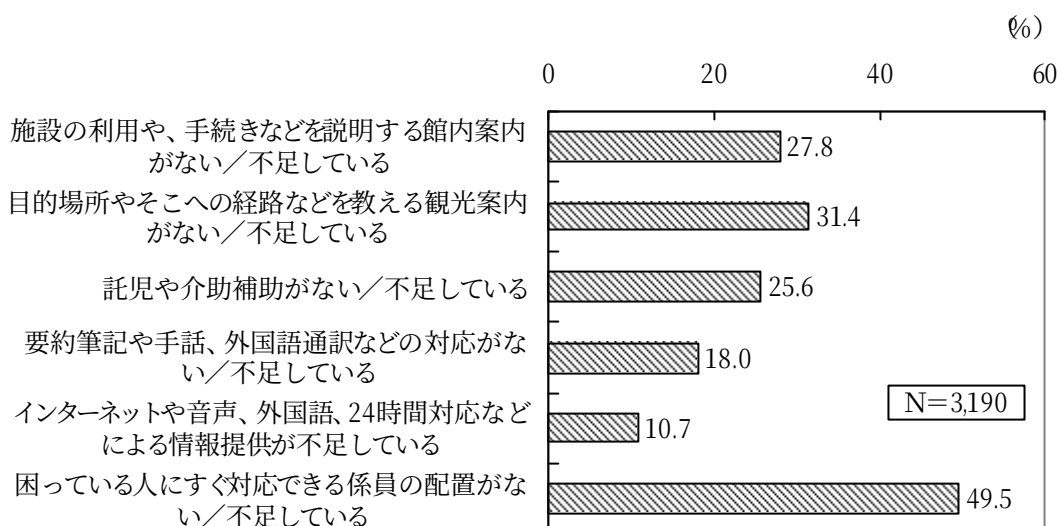
男女とも「道路と施設との段差や施設内の段差」、「駐車場や駐輪場」、「出入口や通路、階段」、「トイレや休憩場所、授乳室」が多くなっている。「道路と施設との段差や施設内の段差」では女性（54.0%）が男性（46.1%）を 7.9 ポイント上回っており、「出入口や通路、階段」では、女性（35.9%）が男性（25.2%）を 10.7 ポイント上回っている。

【性・年代別】

男女とも全ての年代で「道路と施設との段差や施設内の段差」が最も多くなっている。特に女性の 40 歳代は 65.7%で他の年代よりも多い。また、「トイレや休憩場所、授乳室」は、男性の 30 歳代（45.7%）と女性の 20 歳代（45.9%）、30 歳代（49.8%）、40 歳代（41.3%）が他の年代よりも多くなっている。

■不便を感じるサービスは、「困っている人にすぐ対応できる係員の配置がない／不足している」が最も多い

不便を感じるサービスは、「困っている人にすぐ対応できる係員の配置がない／不足している」が最も多く 49.5%、次いで「目的場所やそこへの経路などを教える観光案内がない／不足している」が 31.4%となっている。また、「施設の利用や、手続きなどを説明する館内案内がない／不足している」も 27.8%ある。



【地域別】

各地域とも「困っている人にすぐ対応できる係員の配置がない／不足している」が最も多く、大津・志賀地域 (55.0%)、東近江地域 (53.3%)、湖東地域 (51.1%)、湖西地域 (51.4%) が 50% 台、他の地域も 40% 台となっている。

【性別】

男女とも「困っている人にすぐ対応できる係員の配置がない／不足している」が最も多く、女性 (52.5%) が男性 (45.9%) を 6.6 ポイント上回っている。「託児や介助補助がない／不足している」は女性 (31.2%) が男性 (19.8%) を 11.4 ポイント上回っている。

【性・年代別】

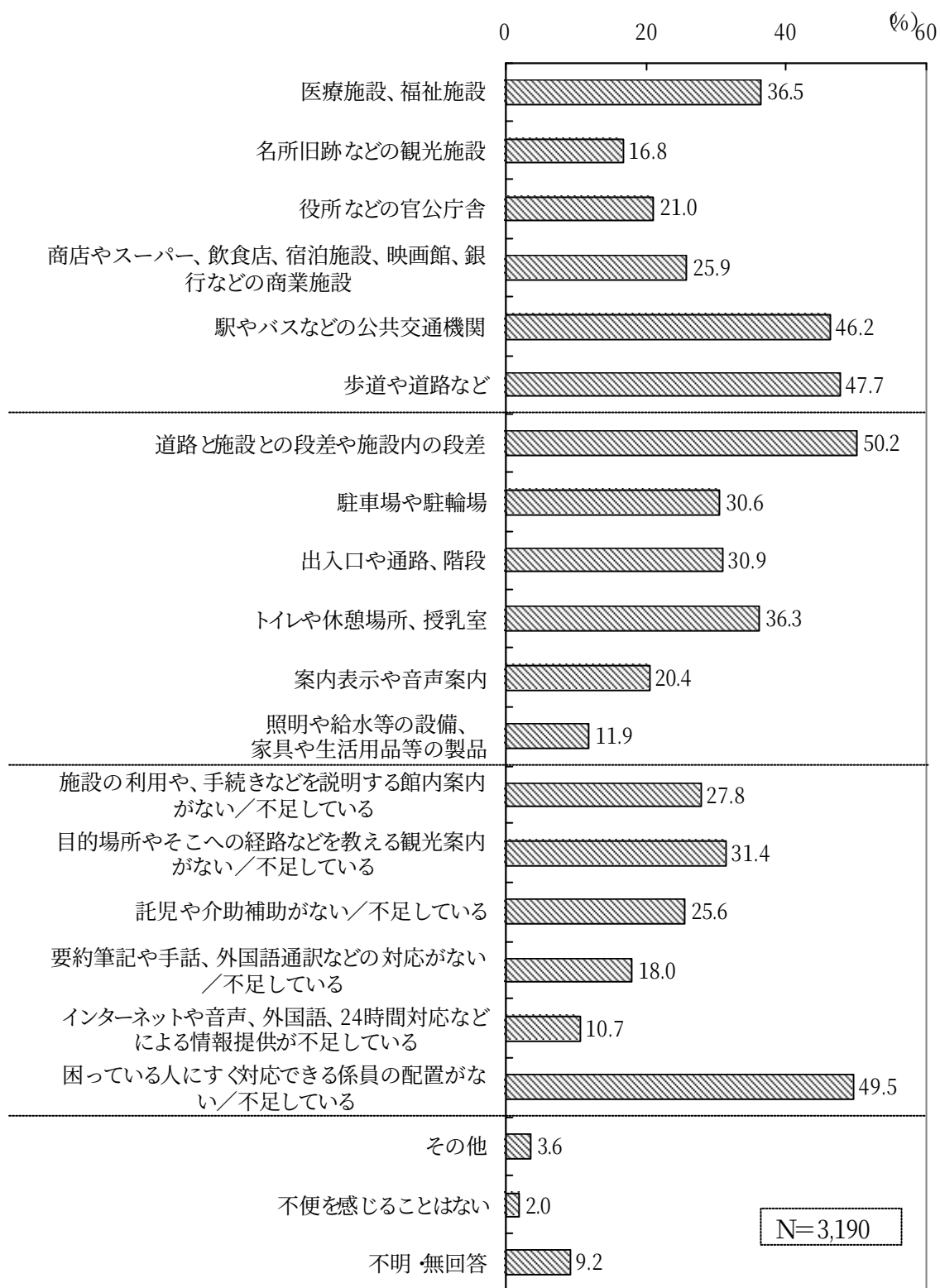
男女とも全ての年代で「困っている人にすぐ対応できる係員の配置がない／不足している」が最も多く、特に女性の 40 歳代が 61.3% で最も多い。

「目的場所やそこへの経路などを教える観光案内がない／不足している」については男性の 60 歳代が 40.4%、女性の 60 歳代が 41.4% で他の年代よりも多くなっている。

「託児や介助補助がない／不足している」は男性の 30 歳代、40 歳代と、女性の 20 歳代～40 歳代で多くなっている。

また、女性の 20 歳代～40 歳代では「要約筆記や手話、外国語通訳などの対応がない／不足している」も他の年代よりも多くなっている。

男女とも 20 歳代では「インターネットや音声、外国語、24 時間対応などによる情報提供が不足している」が 20% 台で他の年代よりも多い。



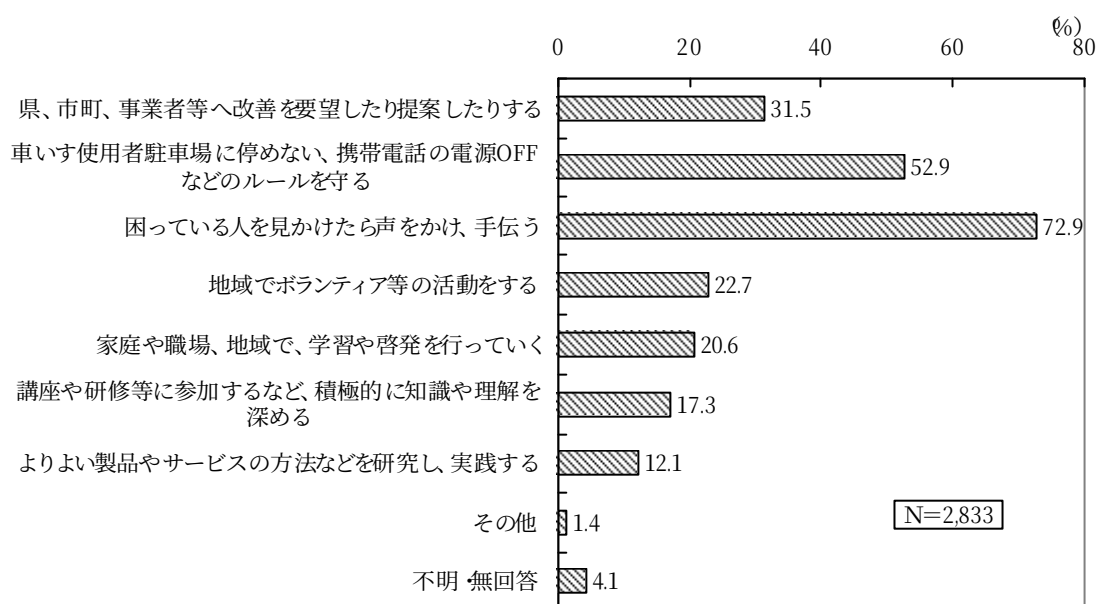
## ②不便に対して回答者自身が何ができるか

付問 1 問 21 で「1～19」のいずれかを回答された方におたずねします。その不便に対して、あなたは何かできるとお考えですか。(〇はいくつでも)

■自分自身ができることは「困っている人を見かけたら声をかけ、手伝う」が 72.9%

問 21 で、不便を感じる施設や場所・もの、サービスのいずれかを選んだ人について、その不便について自分自身は何ができるかを選んでもらった。

結果は、「困っている人を見かけたら声をかけ、手伝う」が最も多く 72.9%に上り、次いで「車いす使用者駐車場に停めない、携帯電話の電源OFFなどのルールを守る」が 52.9%となっている。また、「県、市町、事業者等へ改善を要望したり提案したりする」が 31.5%となっている。



### 【地域別】

各地域とも「困っている人を見かけたら声をかけ、手伝う」が最も多く 60%台後半から 70%台前半の高い値となっている。また、「車いす使用者駐車場に停めない、携帯電話の電源OFFなどのルールを守る」も各地域で 40%台半ばから 50%台後半の値となっている。

### 【性別】

男女とも「困っている人を見かけたら声をかけ、手伝う」と「車いす使用者駐車場に停めない、携帯電話の電源OFFなどのルールを守る」が多くなっている。

### 【性・年代別】

男女各年代で「困っている人を見かけたら声をかけ、手伝う」と「車いす使用者駐車場に停めない、携帯電話の電源OFFなどのルールを守る」が多くなっている。

「車いす使用者駐車場に停めない、携帯電話の電源OFFなどのルールを守る」では男性の 30 歳代と女性の 20 歳代～40 歳代で 60%台の値となっている。また、「困っている人を見かけたら声をかけ、手伝う」は、男性の 20 歳代と 70 歳以上、女性の 20 歳代～50 歳代と 70 歳以上で 70%台となっている。

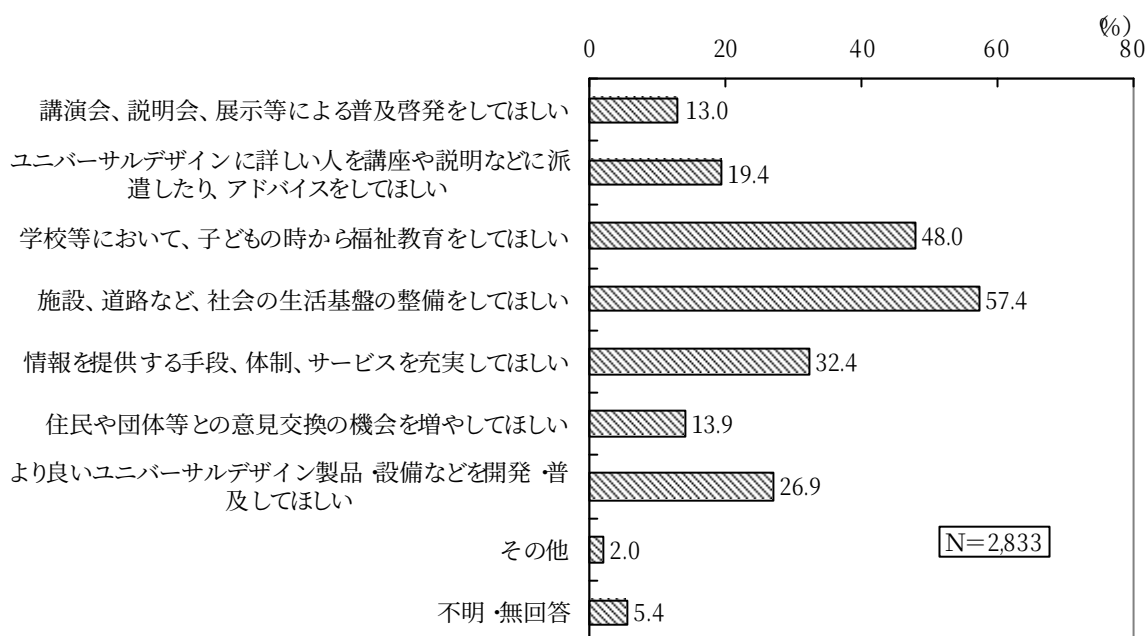
### ③不便に対して県、市町、事業者に何を期待するか

付問2 問21で「1～19」のいずれかを回答された方におたずねします。その不便に対して、あなたは県、市町、事業者に何をしてほしいと思いますか。(〇はいくつでも)

#### ■県や市町、事業者に対しては生活基盤の整備に対する期待が高い

問21で、不便を感じる施設や場所・もの、サービスのいずれかを選んだ人について、県や市町、事業者に何を期待するかを選んでもらった。

「施設、道路など、社会の生活基盤の整備をしてほしい」が最も多く57.4%、次いで「学校等において、子どもの時から福祉教育をしてほしい」が48.0%、「情報を提供する手段、体制、サービスを充実してほしい」が32.4%で続いている。



#### 【地域別】

各地域とも「施設、道路など、社会の生活基盤の整備をしてほしい」が最も多く、大津・志賀地域、湖南地域、甲賀地域では60%台、その他の地域でも50%台の値となっている。

次いで各地域とも「学校等において、子どもの時から福祉教育をしてほしい」が多く、大津・志賀地域では51.9%、東近江地域では50.4%となっているほか、各地域で30%台後半から40%台の値となっている。

#### 【性別】

男女とも「施設、道路など、社会の生活基盤の整備をしてほしい」と「学校等において、子どもの時から福祉教育をしてほしい」が多くなっている。



#### 【性・年代別】

男女各年代とも「施設、道路など、社会の生活基盤の整備をしてほしい」と「学校等において、子どもの時から福祉教育をしてほしい」が多くなっている。

「講演会、説明会、展示等による普及啓発をしてほしい」については男性の 60 歳代（23.2%）、70 歳以上（27.3%）が他の年代よりも多くなっている。

「情報を提供する手段、体制、サービスを充実してほしい」については男女とも 20 歳代が他の年代よりも多くなっており、男性の 20 歳代が 44.9%、女性の 20 歳代が 47.5%となっている。

また、「より良いユニバーサルデザイン製品・設備などを開発・普及してほしい」については、女性の 20 歳代（35.8%）と 40 歳代（32.6%）が他の年代よりも多くなっている。